

記者発表（資料配布）		本紙を含むA4：2枚	
月／日（曜日）	担当部課名	電話番号	発表者名 （担当者名）
平成31年2月7日（木） 午前10時00分	総務課 広報室	0790-82-2549	室長 三浦秀忠 （係長 山本智子）

件名： 第66回兵庫県広報コンクールで広報「さよう」が特選

～兵庫県市町村振興協会「広報まちづくり賞」も受賞～

日ごろから本町の広報活動にご協力いただき、ありがとうございます。

県内各市町が平成30年中（1～11月）に発行・発表した各種広報媒体（広報紙・写真・映像作品）のうちから、優秀な作品を選び表彰する「第66回兵庫県広報コンクール」の各部門入賞作品が決定し、本町が広報紙部門で特選となりましたので、お知らせします。

なお、魅力ある地域づくりに貢献した市町広報紙に対して、（財）兵庫県市町村振興協会から贈られる「広報まちづくり賞」にも選ばれました。

記

1. 受賞作品のあらまし

(1) 広報紙

受賞したのは「広報さよう」平成30年10月号です。「人が支える古里の仕事」と題し、「佐用には仕事がないから——」と言ってふるさと佐用町を後にする若者と、人手不足にあえぐ町内事業所とのギャップに着目し、まちの暮らしを支える「働く」に焦点を当てました。佐用町にある、全国に誇る技術をもつ企業。ふるさとで企業した若者。支援する制度。職業観はいろいろだけど、「佐用で働く」ことは、捨てたものじゃない。そう少しでも思ってもらいたい、若者とその家族へ向けた特集です。

なお、「広報さよう」は、町公式ホームページで閲覧いただくことができます。

（掲載アドレス <https://www.town.sayo.lg.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=4494>）

2. 審査結果の詳細

別紙のとおりです。

3. 全国広報コンクールについて

特選となった広報紙は、（社）日本広報協会主催の平成31年全国広報コンクールに県代表として出品されます。

別紙

審査講評

1. 第 66 回兵庫県広報コンクール

【広報紙部門】

(町の部:特選「佐用町／広報さよう 12月号」)

「読ませる」だけでなく、何を伝えようとしているのか。いずれの広報紙も、力のこもった特集がそろったが、見栄え良く収めているだけでは食い足りなさが残る。「この市、この町をこうしたい、こうしませんか」「私たちの住む場所には、こんなに素晴らしいものがある」といったメッセージ性が盛り込まれているかが、審査のポイントとなった。

町の部では、課題に触れつつ地元で働くことのメリットを若者にアピールした佐用町、地元産野菜の魅力を農家の声とともに紹介した猪名川町などが、読む側の興味を引き付けた。

「働く場所をどうすべきか」という課題に触れつつ、地元で働くことの良さを、それぞれの業種・企業の第一線で活躍する人たちの生の声を通して紹介。地元で働くということに真摯に向き合った力作だ。写真と本文のバランスも良く、余白を生かしたデザインや飽きさせないページ構成の変化、何より見出しで読者をリードしていくスタイルが素晴らしい。

2. (公財)兵庫県市町村振興協会「広報まちづくり賞」(広報紙)

10 ページにわたる大特集で、地元で働くということに真摯に向き合った力作。読ませる特集に仕上がっている。さまざまな立場の人を、丁寧に取材している点も、好感が持てる。まちを良くしたいという熱意が伝わってくる。